

厨芥類資源化施設の整備について

平塚市、大磯町、二宮町では、「厨芥類資源化施設導入調査」の結果を受け、高効率ごみ発電施設の能力などを踏まえた有効性の検証や広域化実施計画等への影響を検討し、厨芥類資源化施設の整備を取りやめることとしました。

厨芥類資源化施設の整備を取りやめることに伴い、広域化実施計画の施設配置を再編し、大磯町でリサイクルセンターを整備することとし、併せて可燃ごみ中継機能の確保を図ることとしました。

○厨芥類資源化施設整備の有効性の検証結果

【中間処理システム等に与える影響】

- ・高効率ごみ発電施設の負荷軽減
- ・メタン発酵処理に伴う全体処理量の増加
- ・生ごみの分別収集に伴うごみの総排出量が減少
- ・生ごみの分別により、分別収集体制への影響が大
- ・一部地域等で生ごみ分別による、住民負担の公平性の確保が困難

【生ごみ分別の精度】

- ・1市2町の地域性などからごみ質の向上や分別の精度が期待できない。

【環境負荷の低減効果】

- ・メタン発酵処理と全量焼却を比較しても、ほぼ同様のCO2削減効果

【経済性】

- ・生ごみの分別収集により収集費用の増加
- ・新たな施設整備による費用面での優位性がない。
- ・高効率ごみ発電施設の処理能力は、今後のごみ処理が可能
- ・発電能力では高効率ごみ発電施設の方が優位

【実効性】

- ・高効率ごみ発電施設が整備されていること、環境負荷の低減効果に優位性がないこと、収集費用や施設整備費、維持管理費などの費用の発生することなどから、生ごみの分別収集に対する住民の理解が得られにくい。

○厨芥類資源化施設の整備を取りやめることに伴う対応

